

連合赤軍関係文献リスト

★印→高橋檀『語られざる連合赤軍』参考文献
◆印→スタイン・ホフ『死へのイデオロギー』参考文献

1-1 当事者【単行本】									
連合赤軍の全体像を残す会	証言 連合赤軍	1～9号／発行継続中	情況出版・皓星社	2004-					
植垣康博	兵士たちの連合赤軍	一審判決後に書かれた、幼少期・青春時代から全共闘への参加、赤軍派への加盟、M作戦、山岳ベース事件を経て軽井沢で逮捕されるまでの一兵士としての回想記。	彩流社	1984	新装版	2001			
植垣康博	連合赤軍27年目の証言	出所後のとまどいが語られる序文、その時期に受けた3本のインタビュー、甲府刑務所時代の獄中生活を描いた手紙を収録。	彩流社	2001					
坂口弘	あさま山荘1972 上、下	控訴審判決直後から最高裁判決直後までの6年5ヶ月の間に書かれた、生い立ちから一連の事件に関する証言。「続」は郵便物紛失事故により、書き直しをおこない、確定後2年を経て出版。	彩流社	1993					
坂口弘	続 あさま山荘1972		彩流社	1995					
坂口弘<坂口菊枝さんを支える会編>	坂口弘 歌稿	1986年の控訴審結審後から始めた歌作と、1989年から1993年に死刑判決が確定し外部交通権の剥奪による投稿禁止までの約4年間に朝日歌壇に投稿した短歌を収録した第1歌集。	朝日新聞社	1993					
坂口弘	歌集 常しへの道	確定死刑囚として過ごした1993-2001年にかけての短歌総計2865首のなかから593首を選び、2002年から5年をかけて脱稿した第2歌集。	角川書店	2007					
永田洋子	十六の墓標 上、下	一審判決前後に書かれ、世の中に発信する関係当事者の最初の手記となった書。自らの生い立ちから同志殺害、獄中生活まで。	彩流社	1982					
永田洋子	氷解一女の自立を求めて	一審後『十六の墓標』を書き上げたあと、事実確認よりも内面的な部分を重視して死刑判決、性と結婚、政治活動、山岳ベース事件などについて記した書。	講談社	1983					
永田洋子	私 生きてます	控訴審中に書かれた、自らの闘病生活、手術、入院生活、闘病の中での裁判、瀬戸内寂聴氏との交流についての書。	彩流社	1986					
永田洋子・瀬戸内寂聴	愛と命の淵に—瀬戸内寂聴・永田洋子往復書簡—	1982-86年(一審判決から控訴審判決)までの瀬戸内寂聴氏との往復書簡。 付録:連合赤軍事件統一公判組一審判決理由要旨・獄中食・病況書・瀬戸内寂聴公判証言・最高裁上告棄却判決書	福武書店	1986	福武文庫	1993			
永田洋子	続 十六の墓標	控訴審判決後から最高裁への上告後に書かれた、逮捕後の取調べ、長期にわたる拘留所生活、控訴審判決、総括論争、闘病生活についての書。	彩流社	1990					
永田洋子	獄中からの手紙	死刑確定直前までに書かれた、『永田洋子さんへの手紙』への返信、高橋和巳『わが解体』について、獄中医療と尿療法、庄司宏弁護士との交流について、及び死刑判決確定後の病状日記。	彩流社	1993					
大槻節子	優しさをください—23歳の死 ※新装版 優しさをください—連合赤軍女性兵士の日記	非合法活動に入る以前の1968-71年にかけての遺された手記。個人的な日記であり、当時の彼女の感性と意識がそのままに綴られている。	彩流社	1986	新装版	1998			
加藤倫敦	連合赤軍 少年A	事件後30年を経て、生い立ちからあさま山荘まで、服役中と社会復帰のこと、環境保護運動に取り組む現在までが描かれた自伝。	新潮社	2003					
板東国男	永田洋子さんへの手紙—「十六の墓標」を読む	1984年アラブで前後任務の合間をぬいしつつ、『十六の墓標』への返信という形で、京大闘争から赤軍派への加盟、連合赤軍事件について、アラブで学んだこと、坂口・植垣二人への伝言などが記された書。	彩流社	1984					
森恒夫<高沢皓司編>	銃撃戦と粛清—森恒夫自己批判書全文(資料連合赤軍問題1)	1972年4月13日から5月2日にかけて書かれた400字詰め原稿用紙換算で約600枚にわたる『自己批判書』(「山岳ベースでの事実の再現」「我々の誤り」と、6月から7月において書かれた角田儀平弁護士宛の手紙。	新泉社	1984					
森恒夫	遺稿 森恒夫	1972年12月25日から1973年1月1日までの一週間のうちに書かれた、板東国男・坂口弘・塩見孝也・松田久宛への5通の書簡。森恒夫が読むことはなかった1973年1月1日付の坂口弘による森恒夫宛の返信を含む。	査証編集委員会	1973					
1-2 当事者【単行本以外】									
情況	1973年5月号 連合赤軍の軌跡 獄中書簡集	情況1973年5月特大号、当事者・関係者の獄中書簡を中心に全面連合赤軍特集。	情況出版	1973					
情況編集委員会	連合赤軍の軌跡 獄中書簡集	1974.3.15/情況1973年5月号の単行本化	情況出版	1974					
信濃太郎編	新左翼運動獄中書簡集	長野で救援活動をしていた信濃太郎氏宛の当事者・関係者の獄中書簡を数多く所収。	新泉社	1994					
朝日ジャーナル	坂口弘・永田洋子往復書簡	掲載号不明	朝日新聞社	1986?					

「実録・連合赤軍」編集委員会 +掛川正幸	若松孝二 実録・連合赤軍 あさま山荘への道程	当事者、関係者多数の寄稿をまとめ、映画公開と同時に出版された。資料として第一級の書。	朝日新聞社	2008				
情況	2008年6月号 緊急特集:『実録・連合赤軍』をめぐって	当事者・関係者の寄稿・対談・インタビュー・資料等多数掲載。	情況出版	2008				
坂口弘	控訴審供述調書		自費出版	1985				
日本死刑囚会議・麦の会編著	死刑囚からあなたへ	坂口弘「判決・教訓・死刑廃止活動」所収	インパクト出版会	1987				
植垣康博・板東国男・永田洋子・塩見孝也	連合赤軍総括に向けて	その1～その4	共産主義者同盟赤軍派(プロ革)	1973-1975				
植垣康博・永田洋子・前之園紀男・嘉村祐一・瀬戸内寂聴	連合赤軍統一公判控訴審 公判証言集		植垣康博・今村幸一	1986				
植垣康博・板東国男・永田洋子	統一公判控訴審 連合赤軍総括資料集 控訴趣意書 供述書(板東国男)		連赤問題を考える会	1992				
植垣康博	連合赤軍総括・二 連赤問題の全面的総括のために—塩見孝也氏の「野合」論による連赤歪曲に反対する!—		連赤問題を考える会	1994				
植垣康博	アジア社会主義と連合赤軍		自費出版	2002				
植垣康博・他	連合赤軍公判ニュース 雪嶺	1号～?	植垣康博・今村幸一	1985?-?				
植垣康博・他	連合赤軍公判ニュース 悪党通信	創刊号～34号	連赤問題を考える会	1990-1998				
板東国男	日本における労働者階級の状態—日本階級構成論序説一(上)	◆1975.8.1	査証出版	1975				
月刊現代	1987年4月号	“加藤生”「初めて明かす連合赤軍の血と掟」所収	講談社	1987				
序章	第8号 公開論争—革命戦争派再生のために—<連合赤軍事件>をどう総括するか	1972.5.20/雪野建作「戦闘集団性を止揚し、革命党形成へ」等所収	京都大学出版会	1972				
序章	第9号 ★三戦士追悼特集—「ディア・ヤシン」作戦と世界革命	1972.9.30/坂口弘「手記(72年4月)」等所収	京都大学出版会・序章社	1972				
序章	第11号	1973.5/雪野建作「ファッション的15年求刑の暴挙を許すな！」等所収	京都大学出版会・序章社	1973				
序章	第14号	1974.4/坂口弘「赤軍派塩見氏への反論(1973.12)」等所収	京都大学出版会・序章社	1974				
情況	1973年7月号 特集:草莽・攘夷・千年王国	雪野建作「<遊撃戦争路線>の総括」所収	情況出版	1973				
流動	特集:赤軍 その軌跡 —連合赤軍から10年	◆1982.2/植垣康博「連合赤軍の革命戦争路線の極左性と同志「殺害」の推進力について(1981.11.30)」等所収	流動出版	1982				
UNI-ON	第2号	1980.12.31/植垣康博「全共闘運動の意義と限界」所収	ユニオン協働組合	1980				
監獄通信	No71 特集:植垣康博 甲府刑務所体験記	1999.5.27/植垣康博「甲府刑務所体験記」所収	統一獄中者組合	1999				
植垣康博	土地革命の現代的意義—古川哲氏の現代日本の土地所有と地代の問題	◆古川哲「現代日本の土地所有と地代の問題(「現代と思想」NO30・1977年12月号掲載)」について		1980				
植垣康博	連合赤軍の闘争経過表	★						
吉野雅邦	事実回想	★						
1-3	当事者【インタビュー・取材記事等】							
宮崎学	叛乱者グラフィティ	植垣康博インタビュー所収	朝日新聞社	2002				
文藝春秋	2005年6月号 特集:証言1970-72	久能靖氏原稿内に植垣康博インタビュー所収	文藝春秋	2005				
別冊宝島編集部	実録 スキャンダルな唄の中	植垣康博インタビュー所収+勝木國男氏手記内に千葉刑務所での吉野雅邦についての言及有/別冊宝島148『実録刑務所マル秘通信』(2007)の改訂・改題・文庫化	宝島SUGOI文庫	2008				

ジーダイアリー	2010年3月号 通巻125号 八木澤高明 連載:「毛沢東」(マオロード)への旅	植垣康博インタビュー所収	バンコク週報社・クエストメディア	2010				
臼井敏男	叛逆の時を生きて	植垣康博・加藤倫教インタビュー所収	朝日新聞出版	2010				
田原総一郎	日本の戦後<下> 定年を迎えた戦後民主主義	植垣康博取材記事所収	講談社	2005				
産経新聞取材班	総括せよ!さらば革命的世代	植垣康博取材記事所収	産経新聞出版	2009				
鹿砦社編集部	スキャンダル大戦争<1>特集:連合赤軍とその時代	青砥幹夫インタビュー所収	鹿砦社	2002				
荒岱介編	破天荒な人々 叛乱世代の証言	青砥幹夫インタビュー所収	彩流社	2005				
中日新聞	2008.11.08 朝刊	青砥幹夫インタビュー掲載	中日新聞	2008				
実話ナックルズ	2008年3月号 小野登志郎 連載:左翼という生き方	“大山幹司”インタビュー記事所収	シオン出版	2008				
創	山本直樹 不定期連載:山本直樹の探りながらいつてみよう	不定期連載中/植垣康博・青砥幹夫・前沢虎義インタビュー等所収/2004.11/2004.12/2005.1/2005.2/2005.7/2005.12/2006.1/2006.5/2007.8/2009.4/2009.11	創出版	2004-				
2 裁判・救援関係等								
連合赤軍公判対策委員会	連合赤軍公判通信	創刊号1972.9/2号1972.12/3号1973.3		1972-1973				
連合赤軍公判対策委員会	会報	1~17号?+特別号		1972-1974				
「我々の手に」編集委員会	連合赤軍問題を我々の手に	再刊1号(通刊12号)~再刊9号(通刊20号)?+号外/通刊11号までは「会報」と同じ		1974-1975				
連合赤軍公判対策委員会世話人会	連赤公判ニュース	★1~17号?		1973-1975				
*	連合赤軍事件統一組一審判決書	★◆1982.6	東京地裁刑事第七部	1982				
*	連合赤軍事件統一組控訴審判決書	★1986.9	東京高裁第四刑事部	1986				
*	連合赤軍事件統一組上告審判決書	★1993.2	最高裁判所第三小法廷	1993				
*	被告人吉野雅邦、同加藤倫教に対する各殺人等被告事件判決(いわゆる連合赤軍分離組)	★◆1979.3	東京地裁刑事第七部	1979				
*	弁論要旨(永田洋子、坂口弘、植垣康博に対する各殺人死体遺棄等被告事件)	★◆	連合赤軍弁護団	1982				
*	連合赤軍統一公判上告審 上告補充書	★						
坂口弘	「共産主義化」の形成過程とその内容	◆						
坂口弘	最終意見陳述	◆1982.3/「月刊状況と主体」谷沢書房1982.10掲載		1982				
坂口弘	「訂正と補充」「『共産主義化』の形成」「遠山さんら三名の赤軍派メンバーに対する総括要求」「『共産主義化』の内容」「メンバーに『総括』を求めた理由」「赤軍派の歴史を総括」「極左の絶対論理」「12.18アピール」	◆						
坂口弘	「あびーる」「あびーる(2)」「あびーる(3)」	◆1982.5.11/1984.6.11						
坂口弘	控訴趣意書 昭和57年(う)第1330号	◆1983.10		1983				
坂口弘	控訴趣意書 昭和58年	◆1983.9	東京高裁第四刑事部	1983				
永田洋子	最終意見陳述 自己批判—連合赤軍の過ちを繰り返さぬために	◆「インパクション」17号~20号掲載/17号1982.4/18号1982.6/19号1982.8/20号1982.10	東京地裁	1982				

永田洋子	控訴趣意書 昭和57年第1330号(被告人 永田洋子 植垣康博)	◆	東京高裁第四刑事部	1983				
植垣康博	連合赤軍事件最終意見陳述書	◆		1982				
植垣康博	連合赤軍問題の総括に向けて 連合赤軍統一公判第一審最終意見陳述	◆	東京地裁第701号法廷第一審	1984				
植垣康博	連合赤軍統一公判控訴審を終えるにあたって	◆	東京高裁第四刑事部	1986				
永田さんを支える会	永田洋子のお元気?通信	★1~15号?						
坂口菊枝さんを支える会	しるし	★1~17号?						
坂口菊枝さんを支える会	しるし増刊号 控訴審供述調書	★1993.12		1993				
支援委・対策委活動者会議	救援通信	★						
救援縮刷版刊行委員会	救援縮刷版 1968.12→1977.8/創刊号→100号	◆	救援連絡センター	1977				
上田吾郎・他	救援についての座談会	◆1939~1940号	日本図書新聞	1972				
書簡集編集委員会編	書簡集1集	◆1973.11	長野救援センター・加藤君を守る会・愛知救援センター	1973				
もっふる社	もっふる通信	◆1~20号?	日本赤色救援会	1971-1973				
もっふる社	3.31人民集会特集 もっふる通信特別号	◆	日本赤色救援会	1972				
信濃太郎	連合赤軍事件回想記		長野救援センター	1993				
井上薫	裁判資料 死刑の理由	文庫版タイトル『死刑の理由』/坂口弘・永田洋子に対する一審・控訴審・上告審判決書を所収	作品社	1999	新潮文庫	2003		
3	機関誌等							
日本共産党(革命左派)神奈川県常任編集委員会編	人民独裁に向けて—日本共産党(革命左派)基本文献集	1972.11.20/「序章」臨時増刊号として刊行	序章社	1972				
日本共産党(革命左派)神奈川県常任編集委員会編	銃撃戦と「肅清」と「連合赤軍」の科学的総括のために	1973.9.15	序章社	1973				
共産主義者同盟赤軍派(革命戦争編集委員会編)	共産主義者同盟赤軍派政治理論機関誌総集	◆1973.10		1973				
共産主義者同盟赤軍派日本労働党建設準備委員会編	総括資料集	◆1973.10		1973				
査証編集委員会	査証	◆1~7号(解散号)、臨時増刊号(「銃よおまえは誰のために」松田久/1973.8.30)	査証出版	1971-1973				
●『増補「赤軍」ドキュメント』(査証編集委員会編・新泉社・1978版)に連合赤軍を含む赤軍派関連の1841点に及ぶ文献目録有。新版には収録されず								
4	警察・司法関係者等							
佐々淳行	連合赤軍「あさま山荘」事件 ※文庫版 連合赤軍「あさま山荘」事件 実戦「危機管理」	同事件の警備に参画した筆者による記録。自己顕示が目立ち、客観性に欠ける。	文藝春秋	1996	文春文庫	1999		
北原薫明	連合赤軍「あさま山荘」事件の真実—元県警幹部が明かす	長野県警警備二課長によるあさま山荘事件の記録。佐々淳行の著作に対抗して書かれた。	ほおずき書籍	1996	ほおずき文庫	2007		
白鳥忠良	あさま山荘事件—審判担当書記官の回想	加藤元久の少年審判担当書記官の回想。	国書刊行会	1988				
白鳥忠良	あさま山荘銃撃事件—同志リンチ殺人事件 審判担当書記官の回想	加藤元久の少年審判担当書記官の回想+「旭の友特集号」からの大量引用。	本工舎	1993				
警察文化協会	連合赤軍あさま山荘人質事件	「永田ら二人逮捕」から始まる当時の新聞紙上に現われた記事の再録。	*	1973				

	長野県警察本部警務部教養課	連合赤軍 軽井沢事件 旭の友特集号	県警本部長から警察署の電話交換手まで、長野県警事件直後の手記などによる記録。	*	1972				
	横川博巳編	長野県犯罪実話集 捕物秘話 第8集	「連合赤軍事件」	防犯信州社	1972				
	公安資料調査会	過激派集団		公安資料調査会	1972				
5	関係者等								
	金廣志	自慢させてくれ!	在日の赤軍派兵士、72年から15年の潜行、そして浮上の自叙伝。	源草社	2001				
	金廣志	落ちたって、いいじゃん! 逆転発想にこそ難関中学合格のカギがある		角川書店	2009				
	塩見孝也+川島豪	いま語っておくべきこと	元共産同赤軍派議長と元日本共産党革命左派常任委員会議長の1990年11月の対談。	新泉社	1990				
	塩見孝也	赤軍派始末記 元議長が語る40年	京大入学から赤軍派の結成を経て、ハイジャック・獄中生活、連合赤軍総括などを時系列に沿って記述。終章に「よど号」グループと拉致疑惑についても書いている。	彩流社	2003	改訂版	2009		
	塩見孝也	監獄記	獄中の痛快エピソードを志向してエンタメたり得ている異色作だが、著者のたつての希望で、1章だけ森恒夫・永田洋子について触れる。森に貧乏くじをひかせたと悼む。	オークラ出版	2004				
	重信房子	わが愛わが革命		講談社	1974				
	重信房子	りんごの木の下であなたを生もうと決めた		幻冬舎	2001				
	重信房子	日本赤軍私史 パレスチナと共に		河出書房新社	2009				
	日本赤軍編著	日本赤軍 20年の軌跡		話の特集	1993				
	査証編集委員会編	新編「赤軍」ドキュメント(資料連合赤軍問題2)	共産同赤軍派の関係文書を編集した資料集。「赤軍」ドキュメント(1975)／増補(1978)／新編(1983)	新泉社	1986				
	高沢皓司	兵士たちの闇	当初、一志徹の名で雑誌に発表された共産同赤軍派一連合赤軍事件のドキュメント。	マルジュ社	1982				
	高沢皓司	行きそぎの青春	「森恒夫 一九七三年一月東京」	講談社	1984				
	高沢皓司・高木正幸・蔵田計成	新左翼二十年史 叛乱の軌跡		新泉社	1981				
	蔵田計成	新左翼運動全史	◆	流動出版	1978				
	高沢皓司・蔵田計成	新左翼理論全史	◆	新泉社	1984				
	高木正幸	新左翼三十年史		土曜美術社	1990				
	荒岱介	ブントの連赤問題総括	20年後に塩見出獄で巻き起こった論争に対し、戦旗紙上に掲載された荒岱介など戦旗派の主張の他、塩見孝也、植垣康博の反論を所収。	実践社	1995	改訂増補版	2005		
	荒岱介	新左翼とは何だったのか		幻冬舎新書	2008				
	三上治	1970年代論		批評社	2004				
	小嵐九八郎	蜂起には至らず 新左翼死人列伝		講談社	2003	講談社文庫	2007		
	小坂修平	思想としての全共闘世代		ちくま新書	2006				
	中野正夫	ゲバルト時代 SINCE 1966-1973 あるヘタレ過激派活動家の青春		バジリコ	2008				
	田中美津	いのちの女たちへ とり乱しウーマン・リブ論	パンドラ・現代書館分／2001(新装版)／2004(増補新装版)／2010(新装改訂版)	田畑書店	1972	河出文庫	1992	パンドラ・現代書館	
6	ジャーナリスト・学者等								
	大泉康雄	氷の城 連合赤軍事件・吉野雅邦ノート ※文庫版 「あさま山荘」籠城一無期懲役囚・吉野雅邦ノート	吉野雅邦の小学校以来の友人の著者が、吉野の手紙をもとに幼少時からの軌跡を記録。	新潮社	1998	祥伝社文庫	2002		
	大泉康雄	あさま山荘事件の深層	関係者の証言や手記をもとに『氷の城』に加筆。	小学館	2003				
	大泉康雄	あさま山荘銃撃戦の深層 上下	「あさま山荘事件の深層」にその後の資料、インタビューをもとに大幅に加筆して再構成した。本文計738ページ	講談社文庫	2012				
	久能靖	浅間山荘事件の真実	あさま山荘事件の日本テレビ実況中継の記録、直前の逃避行の経緯も詳述。	河出書房新社	2000	河出文庫	2002		

椎野礼仁編	連合赤軍事件を読む年表	連合赤軍事件の前史から事件後の動向までの全過程を、当事者(含む報道・警察)の著作から抜粋して年表化。最後に植垣康博の解説に代えたインタビューを掲載。	彩流社	2002				
高橋檀	語られざる連合赤軍―浅間山荘から30年	坂口弘の救援にかかわった筆者による事件の考察。	彩流社	2002				
パトリシア・スタインホフ	日本赤軍派―その社会学的物語 ※文庫版 死へのイデオロギー 日本赤軍派	日本の転向の研究から岡本公三への興味、そして赤軍派、連合赤軍等をアメリカの社会学的手法で分析。まだイスラエルの捕虜だった岡本公三へのインタビューも入っている。	河出書房新社	1991	岩波現代文庫	2003		
パトリシア・スタインホフ+伊東良徳	連合赤軍とオウム真理教―日本社会を語る	坂口弘の上告審、松本サリン事件被害者代理人を務めた弁護士とスタインホフ女史の対談。司会は「連赤の全体像を残す会」のメンバーで『語られざる連合赤軍』の著者高橋檀。 付録:連合赤軍統一組一審公判期日表	彩流社	1996				
田原総一郎	連合赤軍とオウム わが内なるアルカイダ		集英社	2004				
大塚英志	「彼女たち」の連合赤軍―サブカルチャーと戦後民主主義	政治言葉で語られていない点で新鮮。森恒夫の「生理の時なんか〜」発言などを読むと、人は全般的リーダー足り得ないのだ……という思いにとらわれる。金子みちよ評価も。	文藝春秋	1996	角川文庫	2001		
吉本隆明	いまはむしろ背後の鳥を撃て―連合赤軍事件をめぐって―	1972.8.5/『査証(5号)』にも同文掲載	ルビコン書房	1972				
柄谷行人	意味という病	「マクベス論―意味に憑かれた人間」	河出書房	1975	河出書房	1979	講談社文芸文庫	1989
柄谷行人・笠井潔	ポスト・モダニズム批判/拠点から虚点へ <現在>との対話(1)	柄谷行人「連合赤軍事件について」	作品社	1985				
柄谷行人	倫理21		平凡社	1999	平凡社ライブラリー	2003		
笠井潔	テロルの現象学 観念批判論序説		作品社	1984	ちくま学芸文庫	1993		
上野千鶴子	上野千鶴子が文学を社会学する	「連合赤軍とフェミニズム」	朝日新聞社	2000	朝日文庫	2003		
小熊英二	1968【下】叛乱の終焉とその遺産	「第16章 連合赤軍」本書全体は、1970年前後の学生・青年運動の実態をもっとも総括的に記述した労作である。	新曜社	2009				
坪内祐三	一九七二 「はじまりのおわり」と「おわりのはじまり」		文藝春秋	2003	文春文庫	2006		
鈴木英生	新左翼とロスジェネ		集英社新書	2009				
宮崎学	突破者流「殺し」のカルテ 動機と時代背景から読み解く殺人者の心の暗部	「組織という結束が裏切り者排除に向かった末の殺人―連合赤軍あさま山荘事件、オウム地下鉄サリン事件」	日本文芸社	2003				
麻生幾	戦慄―昭和・平成裏面史の光芒	文庫版タイトル『封印されていた文書(ドシエ)昭和・平成裏面史の光芒Part1』/単行本項名「あさま山荘攻防戦の亡霊たち」・文庫版項名「<あさま山荘銃撃攻防>未公開資料の全貌」	新潮社	1999	新潮文庫	2002		
保阪正康	戦後の肖像 その栄光と挫折	「悲しきテロリスト 坂口弘」	TBSブリタニカ/阪急コミュニケーション	1995	中公文庫	2005		
大塚公子	57人の死刑囚	坂口弘・永田洋子の項有/藤井政安の項に坂口弘についての言及有	角川書店	1995	角川文庫	1998		
若一光司	我、自殺者の名において	文庫版タイトル『自殺者 現代日本の118人』/「革命の利益から考えて、その罪は死刑である…連合赤軍中央委員長・森恒夫」	徳間書店	1990	幻冬舎アウトロー文庫	1998		
田中清松	戦中生まれ叛乱譜 山口二矢から森恒夫		彩流社	1985				
金原龍一	31年ぶりにムシヨを出た 私と過ごした1000人の殺人者たち	千葉刑務所での吉野雅邦についての言及有	宝島社	2009				
別冊宝島編集部	左翼はどこへ行ったのか	安彦良和のインタビュー内に植垣康博・青砥幹夫についての言及有/別冊宝島『左翼はどこへ行ったのか!』(2008)の改訂・改題・文庫化	宝島SUGOI文庫	2009				
中川友吉	過激派学生 何が彼らをそうさせたか	森恒夫・行方正時・遠山美枝子の項有	講談社	1973				
滝川洋	過激派壊滅作戦 公安記者日記	1971.6~1972.5の公安担当記者の日記	三一書房	1973				
樋口幸吉	犯罪の心理	「集団暴力と連合赤軍」	大日本図書	1972				

福島章	甘えと反抗の心理	「総括の論理—連合赤軍リーダーの残したもの—」/日本経済新聞社1976年発行の同書には左記論文は未収	講談社学術文庫	1988				
中谷瑾子編	女性犯罪	「第2章 各論 第5節 政治と女性犯罪」	立花書房	1987				
山平重樹	アサヒ芸能連載:連合赤軍物語 紅炎 38年目の「新証言」	暴力団の実録本を書いてきた著者による、ノンフィクション。関係者に精力的に取材し、既刊資料の幅広い渉猟の成果とあわせ、これまでの著作の中でもっとも詳細な記録となっている。	徳間書店	2009-				
山平重樹	タイトル 連合赤軍物語紅炎(プロミネンス)	上記アサヒ芸能連載の単行本。巻末に参考文献54点。	徳間文庫	2011				
鈴木邦男	言論の覚悟 連合赤軍40年							
朝山実	アフター・ザ・レッド 連合赤軍兵士たちの40年	前澤虎義、加藤倫教、植垣康博、雪野建作の聞き書き。	角川書店	2012				
7	ムック誌・雑誌特集等							
読売新聞社会部	連合赤軍—この人間喪失	事件を取材した読売新聞記者による記録。当事者周辺の人々への聞き取りが豊富。	潮出版社	1972				
週刊現代	増刊 緊急特集号 連合赤軍事件	1972.3.21号	講談社	1972				
週刊読売	臨時増刊 総特集:連合赤軍事件	1972.4.5号	読売新聞社	1972				
週刊サンケイ	臨時増刊 連合赤軍全調査	1972.3.27号	産経新聞出版局	1972				
情況	1972年4月号 緊急特集:<政治>のなかの死		情況出版	1972				
インパクション	18号 特集:連合赤軍問題	◆1982.6	イザラ書房・インパクト出版会	1982				
1億人の昭和史	8 日本株式会社の功罪 昭和40~47年 特集:大学紛争・連合赤軍		毎日新聞社	1976				
毎日ムック	シリーズ20世紀の記憶 連合赤軍 ”狼”たちの時代 1969-1975	文化、事件、芸能などについてふんだんに収録された当時の写真が貴重。筆者もよく、丸ごとあの時代を表現し得ている。植垣康博がガリガリに痩せている姿	毎日新聞社	1999				
週刊 YEAR BOOK	日録20世紀 1972 連合赤軍「浅間山荘」事件		講談社	1997				
朝日クロニクル	週刊20世紀 1972 30号 総力特集:決断と実行		朝日新聞出版	1999				
マルコポーロ	1993年7月号 連合赤軍なんて、知らないよ。		文藝春秋	1993				
月光	復活第14号 特集:連合赤軍秘史	2000.3.25号/「連合赤軍秘史」南原四郎	南原企画	2000				
文藝	2000年秋号 緊急特集:赤軍 RED ARMY		河出書房新社	2000				
文藝別冊	KAWADE夢ムック 文藝別冊 総特集:赤軍 RED ARMY 1969-2001	主には重信房子や赤軍派関連の手記等だが、中山千夏や松田政男のインタビュー、平岡正明の論考、足立正生夫人オマイヤさん、大谷恭子弁護士の記事など多彩で興味深い。「文藝 2000年秋号 緊急特集 赤軍 RED ARMY」のムック本化	河出書房新社	2001				
8	散文・対談等							
大江健三郎	壊れものとしての人間 活字のむこうの暗闇	「自註と付録—核時代の『悪霊』、または連合赤軍事件とドストエフスキー経験」	講談社文庫	1972				
寺山修司	死者の書	「森恒夫論」/クインテッセンス出版『寺山修司著作集4』(2009)にも所収	土曜美術社	1974	新装版	1993	河出文庫	1994
寺山修司	新文芸読本 寺山修司	『「連合赤軍」をこう思う』深沢七郎との対談	河出書房新社	1993				
平岡正明	戦後事件ファイル—赤塚不二夫、安保、三島由紀夫、赤軍、ひばりの死、他	「連合赤軍 同志殺し・浅間山荘銃撃戦 赤色犯科帖1 革命は魔道である」	マガジンファイブ	2006				
別役実	別役実の犯罪症候群	「連合赤軍の神話」	三省堂	1981	ちくま学芸文庫	1992		
大岡昇平・埴谷雄高	二つの同時代史	15~16章あたりで一部言及/「世界」1982年月1月号~1983年12月号連載	岩波書店	1984				
佐藤優	国家の畏 外務省のラスプーチンと呼ばれて	東京拘置所での坂口弘についての言及有	新潮社	2005	新潮文庫	2007		
高橋源一郎	文学なんかこわくない	「文学の向う側2 暗闇の中で」/1968年の森恒夫との会話	朝日新聞社	1998	朝日文庫	2001		
見沢知康	囚人狂時代	千葉刑務所での吉野雅邦についての言及有	ザマサダ	1996	新潮文庫	1998		

小池真理子	悪女と呼ばれた女たち—阿部定から永田洋子・伊藤素子まで	文庫版タイトル『悪女と呼ばれた女たち』(副題削除)	主婦と生活社	1982	集英社文庫	1986			
中村うさぎ	壊れたおねえさんは、好きですか?	「連合赤軍とエロスについて考える」	フィールドワイ	2003	文春文庫	2007			
中村うさぎ	穴があつたら落っこちたい!	「連合赤軍事件と私」	角川文庫	2003					
中村うさぎ	うさぎが鬼に会いにいく	「植垣康博 連合赤軍を訪ねて」	アスキー	2007					
川本三郎	マイ・バック・ページ	永井荷風や林芙美子を世界とする川本にこれだけの左翼世界があったとは。赤衛軍事件に関連して朝日を餓首された著者、たった1冊の告白本。2011年に映画化して公開だが…。	河出書房新社	1988	河出文庫	1993			
文学界	2008年10月号	「なぜ「連合赤軍」の時代か」桐野夏生・山本直樹対談	文藝春秋	2008					
表現者	2008年5月号 18号 特集:物語としての「革命」	「連合赤軍事件と現在」笠井潔・西野邁・富岡幸一郎鼎談／「廃屋と化す『板東』旅館」佐伯啓思	イブシロン出版	2008					
9	フィクション								
鮎川信夫	続・鮎川信夫詩集	戦後詩の巨人鮎川信夫が、何故か一篇の詩を書いている。 「My United Red Army」	思潮社	1994					
相澤啓三	詩集 沈黙の音楽	「書かれなかった鎮魂歌」	深夜叢書社	1990					
円地文子	食卓のない家	獄中の連合赤軍兵士(吉野がモデル)の父で、大企業のエリート社員が主人公。主人公と妹の仲を疑って自殺した妻と、キャリア官僚のエリートである妹。この妹が、主人公の心の支えとなる。	新潮社	1979	新潮文庫	1982	読売新聞社	1997	
大江健三郎	洪水はわが魂に及び	「政治」の問題に係わりつつも、著者の後期のテーマである「魂の問題」に移行する時期の長編小説。野間文芸賞受賞。この小説の執筆中に連合赤軍事件が起きる。知恵遅れの幼児ジントともに核避難所跡に籠った狂人勇魚と、「自由航海団」を名乗る若者たちとの交流の物語。	新潮社	1973	新潮文庫上下	1983	新潮社	1996	
大江健三郎	河馬に噛まれる		文藝春秋	1985	文春文庫	1989	講談社文庫	2006	
桐山夔	バルチザン伝説		作品社	1984	第三書館	1984			
桐山夔	風のクロニクル—戯曲		冬芽社	1985					
桐山夔	風のクロニクル		河出書房新社	1985					
桐山夔	スターバト・マーテル	事件を象徴する五編の小話。かつて中核派の活動家だった著者による鎮魂の書。	河出書房新社	1986	河出文庫	1991			
桐山夔	都市叙景断章	失われた記憶の中、姉=彼女に関わる断片、68年10月の新宿、69年9月の日比谷公園、雪の山岳ベース、そして…。	河出書房新社	1989					
埴谷雄高	死霊	「5章 夢魔の世界」	講談社	1976					
夢野京太郎	世界赤軍 夢野京太郎小説集	「連合赤軍リンチ事件」／「夢野京太郎」は竹中労のペンネーム	潮出版社	1973					
小堀昭三	小説・連合赤軍		徳間書店	1973	ココデ出版	2009			
高木彬光	神曲地獄篇	著者の下劣な品性が露呈した醜悪な著作。	角川文庫	1978					
角間隆	赤い雪 総括・連合赤軍事件	角間によるノンフィクション、醜悪なもの。作者の品性が疑われる。	読売新聞社	1980	新風舎文庫	2004			
三田誠広	漂流記1972	三田誠広が連合赤軍事件を扱ってみたら、角間隆を軽くしてみたようなものだった。	河出書房新社	1984	河出文庫上下	1989			
立松和平	光の雨		新潮社	1998	新潮文庫	2001			
高橋源一郎	さようなら、ギャングたち	群像新人長編小説賞優秀作で、著者の実質的デビュー作。巻末に〈一九六〇年代 上手く言い表わせる言葉がない。だから小説を書くようになった。〉とある。著者自ら「60年代3部作」と称し、この後『虹の彼方に』『ジョン・レノン対火星入』と続く。「わたし」の恋人である「中島みゆきソング・ブック」は「わたし」に「さようなら、ギャングたち」と名前をつける。	講談社	1982	講談社文庫	1985	講談社文芸文庫	1997	
高橋源一郎	ジョン・レノン対火星入	第1作として群像新人文芸賞に応募し落選した『すばらしい日本の戦争』を書きかえ発表した、幻のデビュー作。「わたし」の家に来てきた、「花キャベツカントリー殺人事件」を起こした「花キャベツカントリー党」のリーダーである「すばらしい日本の戦争」は「頭の中に死骸が住みつ」いており、「わたし」は何とかして彼の頭から死骸を追い出すべくさまざまな手段を試みる。「すばらしい日本の戦争」は作品の最後では火葬場に入っている。自殺したと思われる。	角川書店	1985	新潮文庫	1988	講談社文芸文庫	2004	

	矢作俊彦	ズズキさんの休息と遍歴 またはかくも誇らかなるドーシーボーの騎行	左という言葉が好きで車好きでも前進とは決して言わないズズキさんは、シトロウエンの2CVを駆って友達(昔は同志と呼んでた)に会いに行く。著者独壇場の時代相の記述。	新潮社	1990	新潮文庫	1994			
	小池真理子	恋	連合赤軍浅間山荘事件を背景に、軽井沢で展開される倒錯した恋と官能、その結末は・・・。	早川書房	1995	ハヤカワ文庫	1999	新潮文庫	2002	
	小池真理子	望みは何と訊かれたら		新潮社	2007	新潮文庫	2010			
	笠井潔	バイバイ・エンジェル		角川書店	1979	創元推理文庫	1995			
	西村寿行	鬼女哀し		徳間書店	1980	徳間書店	1982	徳間文庫	1983	
	ジェラール・ド・ヴィリエ	SAS／日本連合赤軍の挑戦		創元推理文庫	1979					
	ジョセフ・ローゼンバーガー	デス・マーチャント／悪夢の日本連合赤軍		創元推理文庫	1982					
	山崎哲	戯曲 砂の女―連合赤軍ノート―		深夜叢書社	1982					
	折原一	沈黙の教室		早川書房	1994	ハヤカワ文庫	1997	双葉文庫	2009	
	深田祐介	暗闇商人		文春文庫	1995					
	大塚英司	多重人格サイコ 雨宮一彦の帰還		講談社	2000	角川文庫	2003			
10	映画									
	若松孝二	実録・連合赤軍 あさま山荘への道程	あさま山荘にいたる連合赤軍の軌跡を、おもに赤軍派の視点から描く。背景となった60年代の学生運動から説き起し、幅広い世代にわたって関心を呼び起こ	若松プロダクション	2007					
	高橋伴明	光の雨	恩赦で出獄した老齢の坂口が、若い男女に事件を懺悔する、という想定で書かれた。「総括」の過程を息苦しいまで克明に描いており、一部に鋭い洞察もみられ	シネカノン	2001					
	原田真人	突入せよ！「あさま山荘」事件		東映	2002					
	熊切和嘉	鬼畜大宴会		自主制作	1997					
	小林正樹	食卓のない家	円地文子『食卓のない家』の映画化	MARUGENビル／松竹富士	1985					
11	テレビ・ビデオ									
	*	松本清張 事件にせまる 連合赤軍の崩壊	1984.9.20放送／YouTubeにアップあり	テレビ朝日	1984					
	*	驚きももの木20世紀 銃撃と粛清の神話・連合赤軍 あさま山荘事件の真相	1994.9.3放送	テレビ朝日	1994					
	*	知ってるつもり 連合赤軍事件・永田洋子	植垣康博VTR出演	日本テレビ	2000					
	*	田原総一郎の戦後史を辿る旅 全共闘運動とは何だったのか	2002.7.28放送／植垣康博VTR出演	テレビ朝日	2002					
	*	若者たちの夏・全共闘時代	2003.1放送?／植垣康博VTR出演?／上と同じ?		2003					
	*	朝まで生テレビ 激論！オウム・連合赤軍は終わらない!?	2004.3放送／植垣康博出演	テレビ朝日	2004					
	*	プロジェクトX あさま山荘 衝撃の鉄球作戦	VHSビデオ・DVD／86分	NHKソフトウェア	2002					
	*	あさま山荘事件 連合赤軍ドキュメント	VHSビデオ／72分／佐々淳行解説	文春ノンフィクションビデオ／NHKソフトウェア	1998					
	*	田原総一郎の遺言―永田洋子と連合赤軍― 永田洋子その愛その革命	DVD／119分 テレビ東京 出演:田原総一郎/水道橋博士(浅草キッド)/山本直樹/植垣康博	ポニーキャニオン	2012					
	*	田原総一郎の遺言―一線を越えたジャーナリスト達― 総括!知る権利―連合赤軍から機密漏えい事件ま	DVD／153分 テレビ東京 出演:田原総一郎/水道橋博士(浅草キッド)/須藤清華/長谷川幸洋/江川紹子/上杉隆	ポニーキャニオン	2012					
12	漫画									
	樹村みのり	ポケットの中の季節	「贈り物」内の一節「もう一人は72年の年の2月の暗い山で道にまよった」	小学館	1974	小学館	1990			
	大塚英志・藤原カムイ	アンラッキーヤングメン	全2巻	角川書店	2007					
	バンブーコミックス	流血の革命 あさま山荘連合赤軍事件		竹書房	2009					

	山本直樹	ビリーバーズ		小学館	2000				
	山本直樹	レッド Red 1969～1972	連合赤軍事件を、植垣と永田の著作をもとに描いた漫画。史実を正確に描く。「イブニング」に隔号連載中で、単行本が6巻まで発行されている。	講談社	2007-				
13	音楽								
	友部正人	乾杯!	セカンドアルバム「にんじん」(1973)に収録		1972				